

強健かつ増殖率良好な新ブランド系統豚 「ヒゴサカエ302」の誕生

農業研究センター 畜産研究所 中小家畜部
担当者：家入 誠二

研究のねらい

1. 背景

交雑肉豚の元となる純粋種は、独立淘汰による個体選抜に頼っていたため遺伝的変異が大きく、交雑能力にもばらつきがあり、斉一性を備えた、低価格で、高品質かつ安全な豚肉が求められている。

2. 目的

3 元交雑肉豚の基礎となる繁殖性と強健性に優れる新しいランドレース種雌型新系統豚を造成することにより、本県の系統間交配豚を用いた銘柄豚肉生産体制の維持拡大を図る。

研究の成果

1. ランドレース種閉鎖群育種集団に対し、産肉能力、繁殖能力および強健性について、7 世代 8 年にわたる選抜を実施した。
2. 新系統豚の体重 30 ~ 100kg の 1 日平均増体重は 900g 以上で、交雑肉豚における出荷日数を短縮できる(表 1)。
3. 新系統豚の背脂肪厚はおよそ 1.7cm で、交雑母豚のほ乳能力に影響を与えることなく、肉豚における枝肉上物率を向上できる(表 1)。
4. 新系統豚の 1 腹総産子数は、初産時で 11 頭を超え、交雑母豚における年間出荷頭数を増加できる(表 1)。
5. 新系統豚の肢蹄は強く、交雑母豚における事故淘汰率の減少が期待できる(写真)。
6. 集団の血縁・近交係数は順調に推移し、斉一性の高い枝肉が期待できる(図 1)。

普及上の留意点

1. 新系統豚の能力は、他品種系統間の交配によって最大に発揮されることから、中雄(大ヨークシャー種等)や止雄(デュロック種等)の選定に当たっては、別途公表される系統間組合せ検定結果に留意すること。



表 1 . 新系統豚の能力

形 質		例数(頭)	成績
1 日平均増体重	育成雄	56	993 g / 日
	育成雌	147	941 g / 日
背脂肪の厚さ	育成雄	56	1.6 c m
	育成雌	147	1.7 c m
一腹当たり総産子数	母豚	69	11.1頭
離乳時育成率	母豚	69	92.1%

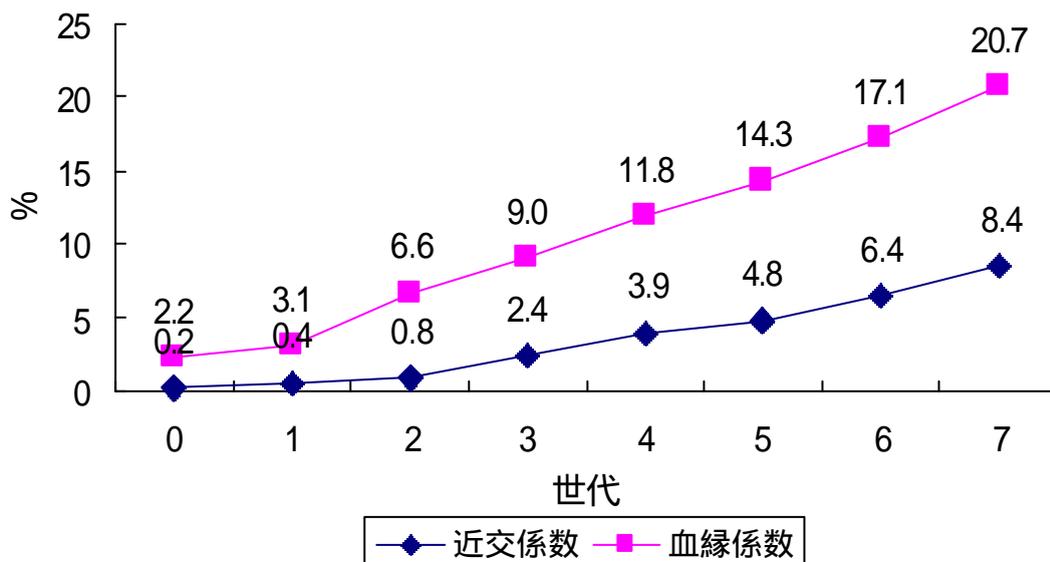


図 1 . 血縁・近交係数の推移